

海外からの観光誘客を再開したタイの状況について

バンコク事務所長 隈本 篤志

1. 開国に舵を切ったタイ

観光大国であるタイでは、コロナ前の2019年には約4000万人の外国人が訪れ、観光関連業がGDPの2割を占めていた。昨年は3月下旬に感染症対策として海外からの渡航を規制したことで入国者は年間670万人に留まり、GDPの8.4%まで減少した。日本のGo To Travelに相当する、タイ国内旅行を推奨するプロモーション「Rao Teaw Duay Kan（英語名 We Travel Together）」が昨年から現在まで計3回実施されているが、滞在中に高額支出する外国人観光客¹が不在のため、効果は限定的である。昨年だけで観光関連ビジネス従事者の15%にあたる120万人以上が失業した²。今年は9月までの入国外国人が8.6万人となっており、状況はさらに悪化している。タイ政府は経済再生を目指し、年末年始等の観光シーズンを前に、ある程度のリスクを覚悟³して開国に向けて急速に方針転換した。

2. タイにおける観光誘客再開に向けた取組み

タイ政府は、タイ南部の観光名所であるプーケット島で、試験的に海外誘客を受け入れるサンドボックス事業を本年7月に開始した。この事業は、ワクチン接種済みの外国人を対象に、入国後7日間を指定エリア内で過ごすことで隔離を免除し、その後はタイ国内の他地域への移動を可能にするもので、欧米人を中心に6万人以上が海外から訪問し、利用した。入国者のうち感染者が200人程度確認されたが、タイ政府は感染を抑えつつ海外誘客につながったと評価している。サンドボックス事業に先駆けて、外国人観光客を受け入れる準備として政府による健康安全基準認証（SHA）を昨年開始した。業種ごとにコロナ感染症防止のための安全衛生基準を規定したチェックリストを公開し、オンラインで申請を受け付ける。条件を満たした飲食店やホテルなど観光関連事業者にSHA認定証を発行している（写真1）。専用のウェブサイト⁴で地域や業種ごとに検索でき、バンコク都内の飲食店では、11月末までに6,000以上の事業者が認定を取得した。

¹ 2019年時点で外国人観光客の年間支出は約2兆バーツ（約6.7兆円）であり、タイ国内旅行者の倍以上を支出。

² World Travel & Tourism Council の調査 <https://wttc.org/Research/Economic-Impact>

³ 入国規制緩和を開始した11月1日は8,165名の感染者が確認され、人口比換算すると日本で約1.5万人に相当。

⁴ SHA 専用 WEB サイト <https://www.thailandsha.com/index>

さらなる海外誘客を目指し、サンドボックス事業を発展させた隔離免除プログラム「Test&Go」を11月1日に開始した。Test&Goを利用することで、低リスク国に位置付けられた日本を含む63か国・地域からの入国客は、バンコクなど主要観光地で、到着後に受けるPCR検査で陰性が確認されるまでの1泊を政府指定ホテルに滞在することでそれ以降の隔離が免除される。それには、渡航7日前までにオンラ



(写真1) 店舗入口に掲示された認定証

イン申請システム「Thailand Pass」において、ワクチン接種証明書や治療費5万米ドル以上の医療保険を提出し、在外大使館等の許可を事前に取得し、搭乗時には72時間以内のPCR検査陰性証明書の提示が必要となる。Test&Goを利用してタイに入国した外国人は、開始からの1か月間で10万人を超えており、そのうち約80人が入国後に陽性が確認され医療機関に収容された。入国者が多い国は、ドイツ、アメリカ、イギリス、ロシア、フランスなど欧米諸国が上位を占めており、Test&Goが開始されて以降、実感としてバンコクの街中や交通機関で欧米人を見かける事が増えた。市中感染者数は以前と同等のペースで減少傾向が続いており、Test&Goが感染再拡大に繋がったという兆候は現時点では見られない。

3. 福岡県への観光誘客に向けて

大の親日国として知られるタイでは、コロナ感染症拡大前の2019年には前年比16.5%増で過去最多の131万人以上が来日しており、ASEAN地域で最多の訪日者数であった。コロナ禍でも日本好きは継続しており、タイ政府が入国緩和に動いた今年10月から11月にかけて、オンライン両替サービスYoutrip⁵とタイ大手カシコン銀行が実施したアンケート調査⁶によると、回答者の7割が半年以内の海外旅行を検討しており、訪問先としては日本が1位となっている。

当事務所では、日本航空（JAL）バンコク支店と共同で、タイ人をターゲットにしたオンライントリップイベントを1月に開催し、規制緩和後に日本に行きたいと考えている方々に、福岡を目的地としてもらうことを目指す。また、福岡～バンコク直行便を運航していたタイエアアジアXとタイライオンエアの路線担当者からは、観光での渡航が可能になれば、福岡便を再開させたいとの意向が示された。経営再建中のタイ国際航空は、再建計画の中で福岡便再開の方針を表明している。来年には旅行関連展示会や日本を紹介するイベントなどの開催が計画されており、当事務所では機会を捉えて県のPRを行っていく。また、インバウンド再開への影響が懸念される新たな変異株による影響も引き続き注視していく。

⁵ Youtrip ウェブサイト <https://www.you.co/th/en/>

⁶ アンケート結果 <https://mgronline.com/business/detail/9640000113421> (タイ語)